

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	大学生のデジタル眼精疲労の実態とアイケアの検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	三沢 萌伽
	研究協力者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	加藤 京里
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	小原 陽子
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	三沢 萌伽

講演題目
看護学生におけるデジタル眼精疲労の実態と眼の健康に対する意識および眼のケア実施状況の調査
研究の目的、成果及び今後の展望
本研究は、看護学生におけるデジタル眼精疲労（Digital Eye Strain：DES）の実態を把握し、眼の健康に対する意識および日常的な眼のケア実施状況を明らかにすることを目的とする。近年、ICT および DX の普及に伴い、大学生は授業、課題、電子教材の閲覧、情報収集等においてデジタル機器を長時間使用する機会が増加している。特に看護学生は、オンライン学修に加え、シミュレーション教育や臨地実習における電子カルテ閲覧など、学修過程でデジタル機器を使用する場面が多い。そのため、眼精疲労、眼の乾燥、視界のかすみ、頭痛、肩こり等の症状が学修効率や生活の質に影響を及ぼす可能性がある。 令和7年度は、研究実施に向けた基盤整備として、研究計画書の作成および研究倫理審査の申請を行った。研究計画の作成にあたっては、先行研究を踏まえ、看護学生を対象とした無記名自記式 Web アンケート調査として研究方法を具体化した。調査項目は、対象者の基本属性、眼の健康に対する意識、眼に関連する自覚症状、眼科検査の受診状況、デジタル機器の使用状況、日常的な眼のケア実施状況等を中心に構成した。これにより、単に DES 症状の有無を把握するだけでなく、デジタル機器使用と健康意識、セルフケア行動との関連を多面的に検討できる調査設計を整えた。 また、研究対象者が学生であり、研究者が教員の立場にあることを踏まえ、研究参加の自由意思を十分に保障するための倫理的配慮について検討を重ねた。具体的には、不参加による不利益が生じないこと、個人を特定できる情報を収集しない無記名調査とすること、データ管理方法を明確化することに加え、研究者と対象者との直接的接触を最小限にするため、第三者であるアルバイトによる研究協力費の受け渡し体制の準備およびリクルートを行った。これにより、対象者が教員との関係性を意識することなく、自由意思に基づいて研究参加を判断できる環境整備を進めた。 今後は、研究倫理審査の承認および研究実施許可を得た後、看護学生を対象に Web アンケート調査を実施する予定である。得られたデータを分析し、看護学生における DES の実態と眼の健康意識、眼のケア行動の特徴を明らかにすることで、学修環境に即した現実的かつ継続可能な DES 予防・症状改善に向けた基礎資料を得ることを目指す。将来的には、看護学生の視機能の維持および学修効率の向上に資する眼の健康支援策の検討へ発展させたい。